

後合併に向けた対策をとらなければならぬと思っております。

そうしたことで、今、行政改革について真剣に取り組んでおります。この財団、あるいは第三セクターが十分な機能を發揮できるような形で、今後、新町において行政改革を含めて、これから真剣に取り組んでいきたい。できることなら早い機会にこうしたことを各財団等の皆さんにお話ができるような形にしていきたいと思っております。

林 幹夫 議員

問 近鉄揖斐駅前 の整備・ 開発促進について

近鉄揖斐駅前前の整備・開発につきましては、12年10月の議会でも早期に整備を着手されるよう提言をいたしております。

しかし、それから丸5年の歳月を経過しましたが、近鉄揖斐駅周辺の状況は、わずかに老朽化した建物の建て替えが行われた以外、当時の写景から一歩も変わっておりません。

この近鉄駅周辺を整備する事業は、通常の地域での橋や道路を整備する環境整備等とは異なりまして、唯一の鉄道、駅を存続させるか、なくしてしまふのか、その選択で揖斐川町の対外的評価が大きく変わります。衆知を集めて、当面の課題を乗り

越え、早期に開発計画の策定をされるよう望みます。

町の人口の課題や観光入り込み人口による活性化を期待する揖斐川町としては、自宅からの通勤・通学に便宜を与え、加えて近鉄路線バスの拠点としても、揖斐駅周辺の整備・開発は、合併後の最優先かつ重要な課題として取り組まねばならない事案と思います。近鉄揖斐駅周辺の整備・開発についての地域協議の進展状況を含めて、町長の考えを示していただきたいと思います。

- (一) 地域協議会で協議された整備・開発の年次計画について
- (二) 観光地として美観から放置自転車の整理とトイレの整備について
- (三) 利用客対策から駐車スペースの確保（利用アンケートの実施）について
- (四) 町内企業への通勤車両増加に伴う交通対策と鉄道利用客確保を図ることで近鉄揖斐駅と企業間のシャトルバスによる従業員搬送の推進について

答 宗宮 孝生 町長

近鉄揖斐駅前につきましましては、町の玄関口として、また公共交通機関の拠点として位置づけられております。利用者増を図るための定住化促進と地域の活性化を考え、一体的な整備を推進する必要があると考えて

おります。このため平成13年度から、近鉄揖斐駅前整備検討会やまちづくり住民会議等の開催を踏まえて策定した整備構想に、今年初めに、農振農用地の区域除外ができました。こうしたものを一体として事業計画に移していくための調査設計を今定例会に補正予算をお願いしているところでございます。御質問の整備・開発の年次計画、あるいは放置自転車、トイレの整備、駐車場スペースの確保等につきましては、あす議決をいただきましたら、調査設計の中で具体的な整備計画として盛り込んでいきたいと思っております。

それからもう一点、シャトルバスによる近鉄揖斐駅と町内企業間の従業員搬送の御意見ですが、単に企業の従業員を搬送するシャトルバス運行というのは、町として難しいんではなからうかなと思っております。近鉄揖斐線と自主運行バスの利用促進の観点から、運行ダイヤや経路の見直しが必要であれば、町内企業の皆さんの御意見も聞いて、検討を今後してまいりたいと思っております。

問 揖斐川町の人口維持 について

日本の人口は、近い将来8千万人になると予測されております。揖斐川町も例外ではありません。そして、

この少子化に加えて、結婚適齢者の町外移住が後を絶ちません。

この社会情勢の中で唯一の人口維持策は、進学、就職でこれから親元を離れていこうとする子弟を町内に足止めすること。特に、結婚適齢期の若者を町内で居住させることに尽きると思っております。加えて、これとは逆に、既に町外に居住している子弟を呼び戻し、あるいは町内企業で働いている他町村居住者の町内定住化促進だと思えます。雇用の場の確保で千人規模の目処が立った現状から、次は住宅の確保問題に取り組まねばなりません。住宅施策について、町長の考えを示してください。

- (一) 公営住宅（町営住宅も含む）と民間の住宅・アパート戸数の現況とその公表について
- (二) 町営住宅の改築計画と新規建設計画について
- (三) 近鉄揖斐線の利用客確保と若者の町内定住化対策として揖斐駅周辺に若者嗜好の公営住宅（アパート）の建設について
- (四) 常に満室状態に有る「雇用促進住宅」の増築について
- (五) 立地条件を考慮した住宅建設業界に対する建築支援策と開発意向調査について

答 宗宮 孝生 町長

町営住宅の現況は、18団地、管理